

会議結果報告書

令和6年6月25日

会議の名称	令和6年度第1回志木市立図書館協議会
開催日時	令和6年6月25日(火) 15時00分～16時45分
開催場所	柳瀬川図書館 2階 視聴覚室
出席委員	原藤光委員(会長)、竹前榮二委員(職務代理)、阿部剛委員、 佐藤淳委員、木村幸子委員、西浦建貴委員、矢部英子委員、 石川敬史委員 (計 8人)
欠席委員	亀井沢真喜子委員、加藤紗千子委員 (計 2人)
説明員職氏名	(柳瀬川図書館) 桜谷館長 (いろは遊学図書館) 竹田館長 (宗岡公民館) 佐野館長 (宗岡第二公民館) 吉田館長 (計 4人)
議題	(1) 令和6年度志木市立図書館の概要について (2) その他
結果	(傍聴者 0人)
事務局職員	早川主査

審議内容の記録（審議経過、結論等）

1 開 会

2 あいさつ 原藤会長

3 議事

(1)令和6年度志木市立図書館の事業概要について

※配布資料を基に各図書館・図書室より説明

<質疑応答>

委員) 宗岡第二公民館では、会議室の予約が入っていない時間は自習スペースとして活用できるとのことだが、どの部屋が使えるかというスケジュールは、どうやってわかるのか。

説明員) 7月に自習スペースとして利用できる部屋については、6月20日に社会福祉協議会のHPやSNS (Facebook・X・Instagram)で公表するほか、館内に掲示している。

委員) 社会福祉協議会のSNSのフォロワーの人数は、どのくらいか。また、フォロワー数を増やす施策を行っているのか。若い世代との情報共有が課題だと思う。

説明員) 各400人程度。社会福祉協議会全体で発信件数を増やすための研修を行い、フォロワー数を増やす努力を行っている。

会長) 自習スペースの開放が図書館・図書室に立ち寄る機会になればと思う。部屋の貸出と本来の図書館・公民館機能が結び付くような取り組みができると良いと感じる。

会長) 柳瀬川図書館でも自習スペースを開放したとのことだが、状況はいかがか。

説明員) 図書館登録者を利用できる条件としたため、青少年の利用登録が前年度より倍近く増加した。問い合わせや利用も多い。Wifi環境も整えている。

会長) いろは遊学図書館は自習スペースを設けているのか。

説明員) いろは遊学図書館には自習席は無い。図書館資料閲覧席のみである。閲覧しながらパソコンが利用できる席も用意しておりWifi環境も整えている。

会長) 宗岡公民館は自習スペースを設けているのか。

説明員) ロビーを開放しており、雑誌を読んだり、自習したりしている。電源は無いが、Wifi環境も整えている。

会長) 宗岡第二公民館もインターネットの利用については、いかがか。

説明員) Wifi環境を整えている。

委員) 自習スペースなどを利用してきた中・高生に施設の事業を周知したり、置いてある本の案内をするなど、施設の機能を繋げて、子どもたちの背中を押してあげるようなことができれば良いと感じた。

委員) 宗岡第二公民館図書室の利用者アンケートの実施は重要だと思う。公民館は地域館として市民のアクセスポイントとして重要な位置を占めていると考えている。

委員) 柳瀬川図書館の学校図書館をめぐる取り組みを評価する。子どもたちの足元にある学校図書館を学校だけでなく、図書館行政を取り巻く環境の中で整備・充実させている。また、制度の整備のみならず、今年度は子どもたちの活動の成果が見えるような事業を行うなど良い方向性で取組が進んでいると思う。

委員) 配布資料の「令和5年度サービス統計」を見ると、柳瀬川図書館を除く3館はコロナ前の状況にほぼ戻っている。柳瀬川図書館は減っているが、何か考えられる原因はあるのか。

説明員) 図書館近隣地区の高齢化により、利用が滞在型に変更したり、一人が一度に借用する冊数が減少したりしている傾向がある。また、サービスポイントを増やしており、そちらの利用が増えていることも要因の一つとして考えられる。

委員) 柳瀬川図書館でボランティアをしているが、最近事業に子どもが来ないと感じている。以前は大きい子どもが卒業したら小さい子どもが参加というように循環していた。赤ちゃんは大人が連れてくるので利用があるのだが、保育園になると参加が途絶えてしまう。また、ブックスタートのボランティアもしているが、以前に比べ絵本の配布数も減っているようで、市全体でも子どもの数が減っているように感じている。

委員) 先ほど、青少年向けのアプローチについての話があったが、柳瀬川図書館で志木第二中学校の1年生のPOPを紹介しており、反響が良かった。それぞれの地域で行っても良いのではないかな。

説明員) 志木第二中学校1年生が作成した自分の好きな本を紹介するPOPと図書館にある本とセットで展示した。

会長) 先ほど自習スペースなどの施設の貸出と施設本来の機能である事業との橋渡しの工夫などが話題となったが、今のような意見も参考にしてみたいか。

委員) いろは遊学図書館は小学校との複合施設なので児童書が多いと思うが、児童書の選定はどのように行っているのか。

説明員) 司書2名を含むいろは遊学図書館職員3名にて選定を行っている。

委員) 児童書の選定について2館2室で協議することはあるのか。

説明員) 協議は行わず、それぞれの館で選定している。

委員) 小・中学生1人に1台タブレットが支給されているが、タブレット上で本が読めるようになっているのか。

説明員) タブレットそのものには入っていないが、インターネットを介して読めるものもある。ただ、学校で配布されているタブレットには、インターネットの利用については、閲覧できるサイトの制限がかかっている。電子書籍が利用できる電子図書館を導

入している自治体もあるが、現在のところ、市では電子図書館の導入を進めていない。ただ、図書館の資料があるかないかが、すぐに検索できるよう、タブレットに図書館HPのショートカットアイコンを貼り付けてもらった。

委員) タブレットの導入が、図書の貸出に影響しているのか。

委員) 調べものでなく、読書については本の方が読みやすいという子どもの意見もある。タブレットの導入により、本の良さを知ったという一面もあると感じている。

説明員) 間接的ではあるが、1か月間に一冊も本を読んでいない子どもの数を調べる不読率の調査では、昨年度より本を読まない子どもの数は減っている。

会長) 電子化の波に図書館がどのように対応していくか、これからの課題と考えるので、機会があれば協議会でも意見していきたい。

4 その他

会長) その他として柳瀬川図書館より「調べる学習コンクール」について、説明があるとのことである。

※柳瀬川図書館より「志木市図書館を使った調べる学習コンクール」について説明

会長) 図書館から協議会への要望は、コンクールの二次審査を行ってほしいというもので良いか。全国コンクールの基準をもとに志木市ならではの基準で作品を選んでいくことになると思うが、審査委員が協議会委員で良いのか、また、応募作品の概要が何もわからないまま審査に臨んで良いのかななどの不安がある。

説明員) このコンクールについて、審査委員の資格についての取り決めは無い。他の自治体の状況を参考にしながら、いつも図書館について協議いただいている協議会委員の皆様をお願いしたいと考えている。審査基準は、本日配布した資料にある10項目が基になる。第1回目ということで、応募される作品がどのくらいの数なのか、どのような内容なのか事務局にも予想がつかない状況である。応募締切りの9月20日から審査までの間に作品の数や概要などについて、委員の皆様にお知らせすることとする。

会長) 協議会委員が審査を行うということに異論はないか。異論が無いようなので、協議会で審査を引き受けることとする。

委員) 表彰の後、提出された作品を活用した事業が出来るのではないか。また、コンクールに臨む子どもにとって、テーマの選定が難しいと聞いている。テーマに沿った資料をパックにして貸し出すという取り組みも一計ではないか。コンクールにチャレンジする子どもを対象に全3回の講座を開催するとのことだが、そのようなことも計画しているのか。

説明員) テーマに沿ったバック貸出については、今後検討したい。応募作品を活用した事業や報告について計画していきたい。また、市の広報で子どもたちの読書活動について特集として取り上げていただくよう予定しているので、その中でも取り上げたいと考えている。

会長) 応募だけで終わらせずに、その後の事業も展開していくということで良いか。

説明員) 良い。

委員) コンクールの事前準備ともなる「調べる学習チャレンジ講座」に参加できない子どももいると思うので、オンライン開催や録画などフォローアップがあると良い。また、子どもたちのモチベーションを上げる一つの方法として、スタンプカードも有効ではないか。

委員) 図書館からオンラインで発信するのは制約が多いと考える。学校への出張は予定していないのか。また、このコンクールでは“図書館で資料を活用して調べる”という点を周知してほしい。図書館に足を運び、書架から直接本を選ぶということで新しい出会いや好奇心が広がるという楽しさを経験してほしい。

委員) 作品に応募する際には、インターネットで調べたものについては閲覧したサイトのURLも記入しなければならないことが書いてある。チラシを見て応募するので、そのことに気づかないのではないか。

説明員) オンラインでの開催は、想定していなかったもので、今年度の実施は難しい。調べる学習チャレンジ講座の学校開催も検討していたが、学校の事業などとの折り合いがつかず、今年度は断念した。また、出典については、必ず記入することとなっている。複数の文献を活用状況から情報の信頼度や多角的な観点から調べたことがわかる。出典の記入については、学校や調べる学習でも指導していきたい。

委員) コンクールは、開催要項にもあるように、子どもたちの「調べたい」という気持ちや情熱へのプロセスを評価するものとする。